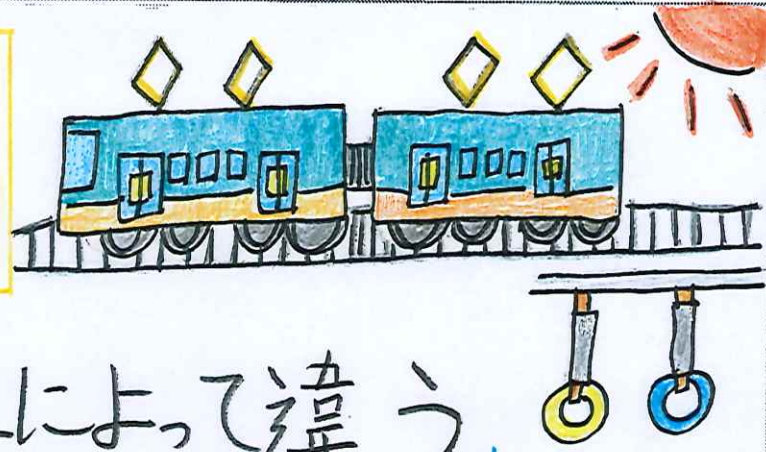
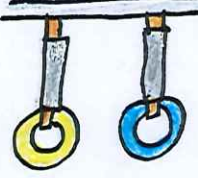


つり革調査 新聞



「つり革の高さは、鉄道会社によって違う」



電車のつり革の高さは、車両の中でも高い方から順に、**通路部分**、**一般部分**、**優先座席前**と3種類に分かれています。

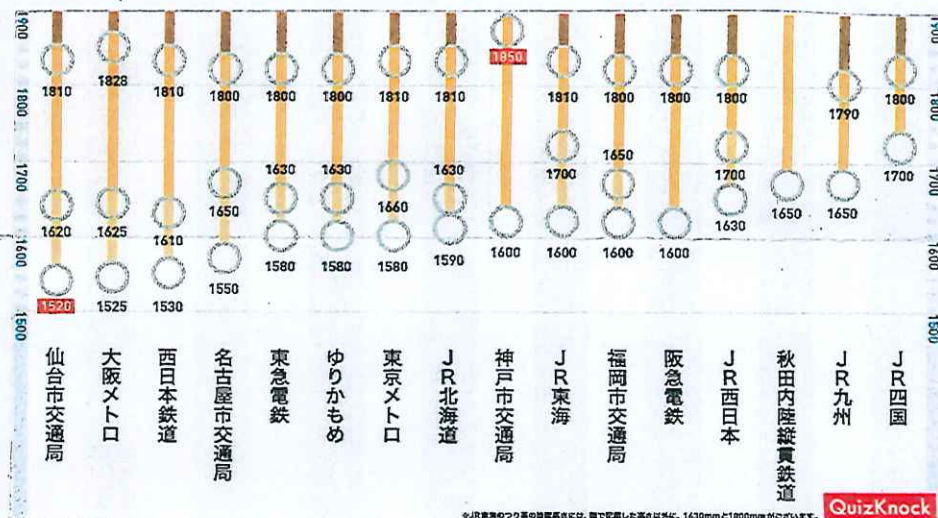
今回の調査で、このつり革の高さは、**全国共通ではなく、各会社ごとに少しづつ違う高さ**であることがわかりました。



「つり革の高さはどうやって決める？」
つり革の高さを決める指標となっているのが、国土交通省によって定められた「公共交通機関の旅客施設、車両等、役務の提供に関する移動等円滑化整備ガイドライン（バリアフリー整備ガイドライン）」です。このガイドラインの中では、「つり革の高さ・配置については、客室用途と利用者の身長域に配慮する」とされており参考例として下記の事例があります。

- ▲ 通路つり革下辺高さは、通路としての要件から1800mm以上とした。
- 一般つり革の下辺高さは、全体の使いにくい割合が最少かつ成人男性の使いやすさを悪化しない範囲から、1600～1650mmとした。
- 低位つり革の高さは、全体の使いにくい割合が最少かつ女性・高齢者の使いやすさを重視し、1550～1600mmとした。

(社)人間生活工学研究センター「日本の人体計測データ(2003)」



QuizKnock



他にも、他事業者の鉄道車両や、鉄道総合技術研究所発表の論文等を参考にしているところなどがありました。

▲ 東急電鉄と名古屋市交通局は、高いつり革を交互に設置しているそうです。

優先座席前のつり革の高さをさらに低くしたり、目立つように黄色にしている会社もあります。



(調査出典元: QuizKnock)